

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	実習
科 目 名	手技療法Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	第2校舎3階実技室
担 当 教 員	岩村 一成	実務経験と その関連資格	平成16年より接骨院勤務。平成19年に柔道整復師専科教員免許取得。 平成24年より大阪ハイテクノロジー専門学校で勤務。 柔道整復師・柔道整復師専科教員・講道館柔道五段・認定実技審査員(整復・柔道)			
《授業科目における学習内容》						
スポーツトレーナー・柔道整復師のマインドセットや必要な知識を座学で行う。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験: 70% 2. レポート: % 3. グループワーク中の態度・発表: 30%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
必要な資料は適宜配布します。						
《授業外における学習方法》						
手技を行うためには、できるだけ多くのヒトの身体に触れることが重要です。家族や近親者に協力をしてもらい、復習を行ってください。						
《履修に当たっての留意点》						
トレーナーの道は、卒業してからがスタートではなく、既にスタートしています。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	前期の範囲を実践できる。	タオル	各自学習した内容の練習	
		各コマにおける授業予定	前半の反省 後半への目標設定 毎日の具体的目標			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	背中への手技を実践できる。	タオル	各自学習した内容の練習	
		各コマにおける授業予定	背中への手技			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩甲骨への手技を実践できる。	タオル	各自学習した内容の練習	
		各コマにおける授業予定	肩甲骨への手技			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	背中、肩甲骨への手技を実践できる。	タオル	各自学習した内容の練習	
		各コマにおける授業予定	背中、肩甲骨への手技の復習			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	頸への手技を実践できる。	タオル	各自学習した内容の練習	
		各コマにおける授業予定	頸への手技			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	頭部への手技を実践できる。	タオル	各自学習した内容の練習
		各コマにおける授業予定	頭部への手技		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	頸、頭部への手技を実践できる。	タオル	各自学習した内容の練習
		各コマにおける授業予定	頸、頭部への手技の復習		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	背中、肩甲骨、頸、頭部手技を評価できる。	タオル	各自学習した内容の練習
		各コマにおける授業予定	背中、肩甲骨、頸、頭部への生徒たちでの評価		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	前面下腿への手技を実践できる。	タオル	各自学習した内容の練習
		各コマにおける授業予定	前面下腿への手技		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	前面大腿への手技を実践できる。	タオル	各自学習した内容の練習
		各コマにおける授業予定	前面大腿への手技		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	前面肩関節、頸への手技を実践できる。	タオル	各自学習した内容の練習
		各コマにおける授業予定	前面肩関節、頸への手技		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	後期範囲を実践できる。	タオル	各自学習した内容の練習
		各コマにおける授業予定	試験範囲の手技の総復習 及び 修正		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	後期範囲を実践できる。	タオル	各自学習した内容の練習
		各コマにおける授業予定	試験範囲の手技の総復習		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	実技試験を実施し知識・技術の熟練度を確認する	タオル	各自学習した内容の練習
		各コマにおける授業予定	後期試験内容の確認・復習		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	実技試験を実施し知識・技術の熟練度を確認する	タオル	各自学習した内容の練習
		各コマにおける授業予定	後期試験内容の確認・復習		